

刃先公差を任意に変更する事で標準パンチの太さをアレンジ！

コストダウンや納期短縮に直接は繋がらないかも知れませんが、お客様が時々使用する発注方法の一つをご紹介します。
 パンチでもボタンダイでも、刃先の公差は0~+0.01が標準規格です。精級指定の追加工を指示すると、0~+0.005となる規格もあります。
 しかし、実際のご注文では、工夫をされ、標準規格以外の公差を、標準品に近い形で購入されているケースがあります。
 実際のプレス部品の穴公差の関係上、クリアランスや摩耗度の調整のため、太めにしたい、細めにしたい、という要望があるようです。

公差の幅は変えずに、公差を任意に変更。

実際の注文書はこのような感じです。

注文No	品名	数量	単価	納入希
		備考		
	DPLA10-50-P3.50 P公差 +0.005~+0.015	1		

標準規格に公差を任意に指定する追加工は基本的に存在しません。上記の公差で製品を製作するとしたら、基本的には特注品扱いで図面が必要となります。

しかし、タカノでは、意図が理解でき、製作が可能であれば全て対応します。

表記する寸法を変えて、公差を指定する

上記の注文例とは異なりますが、こちらと同じニーズから発生し、同じ製品が出来上がります。

注文No	品名	数量	単価	納入希
		備考		
	DPLA10-50-P3.505	1		

このケースも、実は標準規格ではありません。標準公差は0~+0.01なので、例①と同じ公差範囲となっています。

本来、標準パンチの刃先径(φP)の寸法指定は0.00(百分代)までとなっています。上記は0.000(千分代)の寸法指定となっており、こちらも特注品として正確には図面が必要です。

もちろん、こちらのケースでもタカノは常時対応しています。

このように、実際には図面を書かなければ伝わらない公差範囲の指定があっても、注文時の表記を工夫することで、標準部品のように特注部品を発注することが可能です。

「クリアランスを広げたい、パンチを太めにしたい」、「でも・・・図面を書くのは面倒だ」
 「特注品として見積もり価格を高くしたくない」というような意図がある際は、このように**表記を工夫するだけで、価格や納期が変わる可能性が有ります！**少なくとも、図面を製作する手間は省けます！